

(報告)

「府立高校特色化推進プラン～魅力あふれる46の特色～」の中間案について

平成24年度のアクションプランである「府立高校特色化推進プラン～魅力あふれる46の特色～」の中間案について、別紙のとおり報告します。

平成24年9月11日

教育長 田原 博明

府立高校特色化推進プラン～魅力あふれる46の特色～

検討会議名 府立高校特色化推進プラン検討会議
 担当部課 教育庁指導部 高校教育課

■現状と課題

社会情勢の変化、経済・雇用情勢の悪化、グローバル化・少子化などの進展などに伴い、高校教育を取り巻く環境が激しく変化している。また、高校等への進学率が98%を超え、中学生のほとんどが進学する中、生徒の学ぶ意欲や興味・関心、目的意識、進路希望などが多様化している。

現在、府立高校では、生徒の個性・能力を最大限に伸ばすため、教育システム・入試制度の見直しや、各校の魅力づくりを進めているところであるが、さらなる府立高校全体のレベルアップを図り、生徒一人一人に応じた教育と時代の変化に対応した教育を実践するため、各高校の特色化を推進することが必要である。

■達成したい具体的な目標

- 1 府立高校全体のレベルアップ
- 2 生徒に対するケアの充実
- 3 各高校の特色化推進

■プランの方向性～特色化を進める10の柱と方向性

	柱	方向性や具体案
府立高校全体のレベルアップ	①質の高い教育	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した教育 ・府立高校でのみ学べる教科の開講 ・民間ノウハウによる指導方法開発 ・よりきめ細かな指導のための新「少人数指導」スタイル確立 ・北部地域の医療充実に向けた教育
	②教員の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> ・特色化を具体化する新たな教員配置方法の開発や加配措置 ・従来の方法にとられない教員の採用方法と育成方法の開発 ・時代の変化に対応した教員研修（民間力活用） ・府立高校の特色に応じた教員の認証制度の導入
	③府民の信頼を得る学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・特色化に応じた分掌組織の見直しと教員の適正配置 ・「見える化」学校運営（生徒による評価、学校教育モニター等導入） ・学校裁量の拡大
ケア生徒の充実	④徹底した進路保障	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアカウンセラーの常設 ・キャリア教育の推進 ・あらゆる機関と連携した進路指導体制強化（人員充実）
	⑤修学の支援	<ul style="list-style-type: none"> ・交通不便地にある高校への施策（スクールバス、寮、通学費補助） ・それぞれの分野のスペシャリスト（専門職員）配置
各高校の特色化推進	⑥部活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・全国トップレベルの生徒育成 ・トッププレイヤー、指導者の特別コーチ招聘 ・府内に設置例のない部活動の立ち上げ
	⑦土曜日の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・土曜日を活用した学校教育の充実
	⑧多様な人間力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・文化活動・芸術教育の充実（豊かな人間性の育成） ・チャレンジ精神の育成（海外研修、起業、体験）

進		・「古典の日」にちなんだ京都ならではの伝統文化教育
	⑨発信力・広報力の強化	・志願につながる生徒・保護者へのアプローチ ・民間による各校広報の検証と見直し（民間視点・手法を導入） ・パブリシティのより積極的な活用
	⑩各校独自の施設設備整備	・特色化と直結した施設設備の整備（学習指導、専門教育、部活動など）

■検討委員からの主な意見

- ・ 質の高い教育を進めていくためには、機器・施設の整備、教員の資質向上、さらには工夫した教育を推進するための教員配置が必要である。
- ・ 北部地域の医療の問題は深刻である。府立高校から医学部に生徒を送り出し、医師となって地元に戻ってくるという実績をつくり、医師を定着させなくてはならない。北部の高校に医学部進学コースの設置が必要である。
- ・ ICTは、子どもの視覚に訴えるという点で非常に効果がある。社会や理科でのイメージづくりなどにおいては、臨場感を持って理解できるなど効果も大きい。生徒自身が機器を活用してプレゼンテーション力を定着させることが大切である。
- ・ 高校入学段階での生徒の学力実態は大きく変化している。自校の生徒の学力実態を把握する上で、府立高校実力テストの活用の工夫がより必要になる。
- ・ 高校卒業後進学しない生徒が、自立して生活していくためには、高校教育の中で、ある程度のソーシャルスキルを習得させ、キャリア教育を充実する必要がある。基礎学力の向上は教職員が担い、ソーシャルスキル教育やキャリア教育は外部の専門家が担うなど、両輪で進めていくことも大切である。
- ・ 高校に入学してから、今後の生活や進路のことなどをきちんと指導してくれるキャリアアカウンセラーの配置が、府立高校の底力を上げていくことにつながる。
- ・ すでに何校かの高校では、特色化に向けた学校改革が始まっているが、今回の検討会議を受けて、さらに、各高校独自の改革に向けた「本気度」を示す必要がある。そのためには、改革を推進するための校務分掌が必要である。特に、若い世代の教員がその任を担い、推進力となる必要がある。ただし、特定の教員に負う形の改革は長続きしないので、組織的に取り組むことが大切である。
- ・ 学校改革にあたっては、大胆な発想が必要である。「どこから切っても同じ金太郎飴」のような府立高校の在り方を根本から見直し、高校が向かいたい方向性がクリアに見えるような大胆な改革が求められている。
- ・ 部活動で結果を出すには、やる気のある生徒、素質のある生徒がいて、熱心な指導者がいて、常時使用できる施設があることが必須となる。
- ・ 教育課程上、例えば、土曜日に授業をしようと思っても府立高校では実施できない。私立高校とは非常に大きな差がある。府立高校独自に規制緩和を行い、私立高校と同等のことができるようにする必要がある。
- ・ 寮の整備も必要だと思うが、保護者は自宅から通えることに安心感を抱かれる。北部地域では、18歳で家を出ることが多いが、15歳でとなると保護者としては不安もある。鉄道もバスも便数が少ないため、高校で部活動や勉強をしたくても、時間が制約される。私立高校のように通学バスなどがあれば、さらに子どもたちの選択の幅が広がっていく。
- ・ 高校の特色化を支える条件面の整備をもっと考えてほしい。あんしん修学支援制度によって、私立高校と府立高校の費用面での条件は同じようになりつつある。